

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：64303

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01515

研究課題名(和文) インド洋交易圏の統計的研究 近代世界における地域交易像の再構築—

研究課題名(英文) A Statistical Study of Indian Ocean Trade: Towards a Reappraisal of Regional Trade in Modern World History

研究代表者

杉原 薫 (Sugihara, Kaoru)

総合地球環境学研究所・研究部・客員教授

研究者番号：60117950

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀中葉から1930年代までのインド洋交易圏の総交易額(輸出ベース)は、おそらく世界貿易に匹敵する成長を示した。輸出額に占める域内交易の比率も大きかった。地域交易は、まず港市ハブを核とする西インド洋、インド、東南アジアにおける海域・沿岸主導の交易として発展し、それにインド亜大陸や東南アジア半島部、東アフリカにおける鉄道建設主導の内陸部の開発が加わった。そして、それらを統合する大港市ハブで、遠隔地貿易と地域交易の融合が実現した。域内交易網は、植民地化と「強制された自由貿易」体制の下で、主としてアジアの商人や金融業者が作り出した地域経済システムであった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

インド洋交易圏の成長は、主権国家によって構成される自由貿易体制とは根本的に異なる体制の下で生じ、大港市への権力・富・情報の集中、「ハブ・後背地関係」を軸とする広大な地域の序列化と、環境的周辺における生態系の破壊や土地の劣化をもたらした。と同時に、「交易の利益」を通じて地域全体の人口扶養力の上昇にも貢献したと考えられる。そこで刻印された自由貿易の構造は、第二次大戦後の政治的・経済的独立の過程でしばしば否定的に捉えられた。しかし、「インド太平洋構想」に表現される現代の動きは、正負両面を見据えたインド洋交易圏のより長期的な歴史的評価の必要性を示唆しているように思われる。

研究成果の概要(英文)：According to the statistical compilation of Indian Ocean trade conducted by this project, the volume of exports from the middle of the nineteenth century to the 1930s increased roughly at the same pace as world trade, and the proportion of regional trade (as distinct from long-distance trade, mainly with the West) in total exports was sustained, or increased if we take into account internal (rail- and river-borne) trade. Regional trade was first driven by the coastal trade between the hub ports and minor ports. With the construction of railways, trade networks were extended to the interior. Power, money and information were concentrated on central hub ports such as Bombay and Calcutta, and the regional hierarchy of hubs, hinterlands and the environmental periphery emerged. At the same time, trade networks developed by Asian merchants under colonial rule contributed to the rise of regional population carrying capacity through the exploitation of the gains from trade.

研究分野：経済史

キーワード：インド洋交易史 グローバル・ヒストリー 貿易統計 経済発展経路 植民地化

1. 研究開始当初の背景

ヨーロッパとアジアの比較を中心とするグローバル・ヒストリー研究と並行して近年盛んになってきたのが、植民地化が進む 19 世紀から 20 世紀前半の時期における、インド洋交易圏およびサブサハラ・アフリカの交易・労働移動・文化接触などの関係史である。経済史の通説では、これらの国・地域の多くは、欧米の先進工業国に第一次産品を輸出するサテライトとして再編されたとされ、近世あるいはそれ以前から、他の大洋に匹敵する規模と多様性を誇ってきたインド洋交易圏も、植民地化、世界経済への統合の流れのなかで、相対的には衰退したとされてきた。もちろん、こうした理解に対する部分的な反論は積み重ねられてきたが、スエズ運河の開通に象徴される交通・通信革命の影響を見れば、欧米との遠隔地貿易の優位が確立したこと、その結果、地域交易の比率が下がったという理解に根本的な異論を唱えることはむずかしかった。

しかし、近年のアジア交易史研究は、植民地化によって確定されていった領域区分を前提とせず、港などのより小さな単位で見た統計、沿岸交易、鉄道交易、道路交易といった関連統計を、外国貿易統計とつきあわせて検討する手法を開拓してきた。インドの遠隔地貿易は、イギリス東インド会社の領域支配が進むとともに急速に増加したが、しかしこの時点でのインド洋地域交易と国内交易もまた、他地域と比較すると、きわめて大規模なものであった。インド洋交易圏は衰退したのではなく、ヨーロッパ主導の遠隔地貿易体制の下で、東南アジア、東アジア、中東、東アフリカ、南アフリカなどを含む広範な地域で、形を変えて生き残ったのではないか。実際、インドの沿岸交易を付け加えただけでも、1910 年段階の地域交易の割合は、東南アジア、南アジア、西アジアおよびインド洋側のアフリカの主な港の過半数で、遠隔地貿易と同等か、それより高くなる。また、遠隔地貿易の理解も、国際貿易を扱うアジアの大港市から域内、国内の都市や農村をつなぐ独自の地域交易網の存在が解明されるにしたがって、従来欧米主導とされてきた遠隔地貿易そのものがしばしば地域交易網の発達に強く依存していたことも明らかになってきた。

いったいインド洋交易圏は、どのようにして世界経済に統合され、生き延び、発展したのだろうか。それは、19 世紀以前の歴史をどのように継承し、また独立後の歴史にいかなる径路依存性を刻印したのか。さらに、地域交易の盛衰は、それぞれの地域の経済発展径路にいかなる影響を与えたのか。こうした問題群が成立しつつあるように思われる。

2. 研究の目的

こうして本研究は、インド洋交易圏が 19 世紀から 20 世紀前半の時期においてどのように生き延び、発展したのか、その趨勢と構造を数量的に把握し、グローバル・ヒストリーにおける地域交易の役割を論じることを目的とする。

具体的には、まず、「交易による相互利益」が追求されたこと、その規模と重要性を統計研究によって示す。インド洋交易圏が、交易と生産を組織する高い商人的ノウハウを備えていたことは多くの実証研究が示してきたところである。商人ネットワークは、必ずしも生産方法の変化をもたらさなかったが、生産のネットワークを組織することはできた。グジャラート商人やアラブ商人のほか、パールシー系の商人や、サスーンのような中東から来たユダヤ系商人もいれば、シンド商人のように半乾燥地帯の出身のグループもいた。宗教的言語的にも多様な出自のグループが活躍していたことは、伝統的な消費構造の新しい環境への柔軟な対応を可能にしたと考えられる。本研究は、そうした知見の統計的裏付けを強化し、ネットワークの性格や相互関係の理解を促進する。

第二に、発展途上国の雇用に影響の大きい労働集約型工業における域内競争の重要性を指摘する。地域交易は必ずしも特定の国の産業の衰退をもたらすものではなく、技術移転などをつうじて雁行的に発展する場合もある。インド洋交易圏における工業品の消費構造は多様であり、ボンベイの綿工業や、綿製品や雑貨を得意とする日本の労働集約型工業は、そうした市場に商品を提供することによって国際競争力をつけた。特に西インド洋交易圏ではインド綿製品が市場を開拓し、イギリス綿布や(東アフリカでは)アメリカ綿布と競合しつつ、未晒綿布で長期にわたって最大のシェアを維持した。そこでは日本綿布も、1930 年代になるまでインド綿布との競争で優位に立つことはできなかった。そうした生産と消費の地域ダイナミズムにも光を当てたい。

第三に、域内交易はローカルな資源制約の緩和(あるいは負荷の増大)にしばしば決定的な役割を演じたことを示す。従来の研究は、経済成長の源泉を主に技術革新や制度、人的資本形成に求め、地域の環境に根差した資源制約の特徴を長期的な動態の視点から概念化してこなかった。しかし、経済発展に必要な資源は、資本、労働といった比較的商品化しやすいものだけではなく、市場では容易に調達できないもの(非貿易財)もある。土地もそうであるが、従来経済の長期変動と結び付けられることの少なかった水やバイオマスも、地域単位での需給は大きく変動してきた。地域交易は飢饉や食糧不足を緩和し、移民を通じた交流を促すとともに、疫病や市場価格の激変を持ち込む要因でもあった。南アジアでも、長い植民地支配による制度的断絶にもかかわらず、厳しい資源環境のなかで人口扶養力を維持するために育まれたローカルな資源制約への

対応と、それにもとづく技術や制度には、その限界も含めて、長期の発展経路と呼ぶにふさわしい連続性が認められる。

第四に、地域交易は、植民地期に建設された鉄道、道路、港湾などのインフラや欧米の資本を直接間接に利用することによって、むしろ植民地化、世界経済への統合の進展を支える側面を有していたことを明らかにする。地域交易は、第一次産品輸出経済に組み込まれた農民や労働者に食糧や日用品を提供することによって、遠隔地貿易の発展を支えてもいた。

本研究は、地域交易に関するこうした論点がインド洋交易圏の歴史にどのように現れるのかを包括的に検証する試みである。

3. 研究の方法

ここでは、実際に行った作業を例にとって説明する。第一に、データの収集と加工が本プロジェクトの中心的作業である。イギリス議会文書や大英図書館、国立文書館で収集可能な外国貿易、沿岸交易、鉄道・河川交易、道路交易などのデータを、杉原研究室で雇用するリサーチアシスタントの協力の下で、地域交易額を推計した。具体的には、1840年、1870年、1890年、1900年、1910年、1928年、1938年、1950年の8か年をベンチマーク年とし、30あまりの国・地域について総輸出額とその中の地域交易比率を算出・推計した（1810年についても情報を収集した）。なお、コロナ感染症の蔓延に伴ってBritish Libraryが一時的に閉鎖されたこともあり、1年間の繰り越しを行った。

第二に、データの検証と方法の共有について、収集を試みるデータは、早い時期には大きな欠落があったり、データの性格が十分に明らかではなかったりすることも少なくないので、共同研究としてその明示的な共有を試みた。すなわち、本研究では、各地域、特定の時代の専門研究者の知見をつきあわせて、資料の全体像を構築することを重視した。杉原は、2019年にイギリスを訪問し、Gareth Austin教授（Cambridge, サブサハラ・アフリカ経済史）、Tirthankar Roy教授（London School of Economics, インド経済史）と2日間にわたって詳細な意見交換を行った。分担者も、それぞれの研究の文脈で同様の作業を行うとともに、杉原研究室に蓄積されているデータをオンラインで共有した。また、紙媒体のものも含めて資料の全体像を把握するために総合地球環境学研究所を訪問し、意見を交換した。その結果、膨大な統計資料の厚みを共有することができた。

第三に、共同研究について、本研究では、テーマの時間的空間的な広がりを考慮し、研究史の相互共有を重視した。毎年3回の研究会または国際セミナーを開催し、代表者、分担者の研究進捗状況を全体で頻りに共有した（繰り越し年を含めて4年間、ほぼ全員が参加）。とくに、国際セミナーの開催（2019年8月、政策研究大学院大学（GRIPS）；2020年10月、総合地球環境学研究所、一部オンライン）、パリで開催された世界経済史会議への参加（2022年7月、一部オンライン）、総合地球環境学研究所で行った最終国際シンポジウム（2023年2月、一部オンライン；Tirthankar Roy教授、Roy Bin Wong教授（UCLA, 中国史、グローバル・ヒストリー）が来日され、各報告に対して逐一コメントされた）などにおいて国際的な問題関心を共有し、英文論文集のために執筆した原稿の草稿を持ち寄って議論した。研究協力者（脇村孝平、水島司、大橋厚子、峯陽一、神田さやこ、太田淳）の方々も参加され、貢献していただいた。その結果、地域交易統計の研究における19世紀中葉以前と以降の統計の質の違いや、英領インドとそれ以外の地域の統計の質の違い、インド洋交易圏各地における研究史のバラツキ、さらにグローバル・ヒストリーにおける位置づけなどについての理解を共有することができた。

なお、主要な成果を英文論文集にまとめて2024年度中に刊行することを目指している。

4. 研究成果

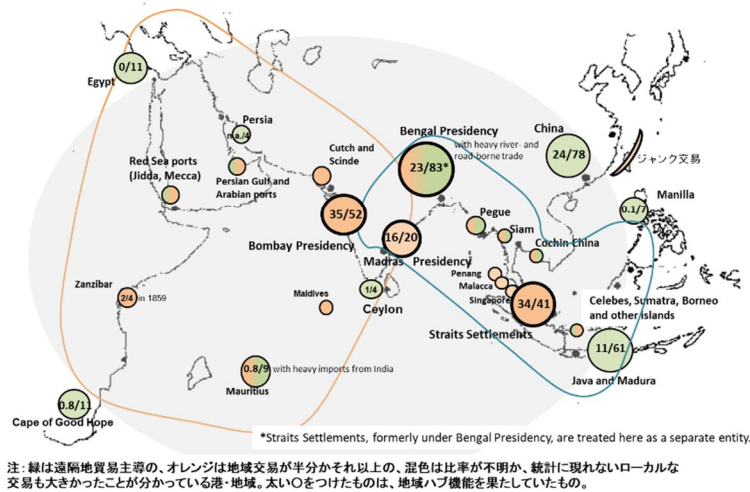
(1) インド洋交易圏の形成と構造

イギリス、オランダ、フランスなどの収集した統計から、西インド洋、英領インド（管区別）、ベンガル湾・東南アジアの計33の港市・地域を選んで輸出額を整理すると、インド洋交易は1840-1928年のあいだに、世界貿易に比肩する成長を示しただけでなく、輸出額に占める地域交易の比率も維持されたものと考えられる。世界貿易が停滞した1930年代には輸出額自体は減少したが、地域交易比率は良く維持された。ここでは1840年と1910年をベンチマーク年として、地域交易の規模と趨勢を示し、その地域経済圏への影響と特徴を論じる。

1840年の貿易統計を検討すると、インドの三管区（ベンガル、ボンベイ、マドラス）とくにその主要港で記録された交易額が群を抜いて大きいことがわかる。図1は、ボンベイ、マドラス、カルカッタ、海峡植民地（ペナン、シンガポール、マラッカの計）の4つのハブのデータから原則として40万ポンド以上の輸出額があったと思われる地域を取り出したものである（ほかにも額の小さい多くの港が資料に現れる）。また、図でオレンジ色をつけた管区・港の地域交易額は、遠隔地貿易額を凌ぐほどの大きさであった。すなわち、この段階で、インド洋では4つのハブを中心に、多くの港のあいだにローカルな交易ネットワークが存在した。蒸気船も鉄道もまだ重要ではなく、ダウ船やジャンク船など従来の交通手段で、しかし時に広大な海域をまたぐ沿岸主導（sea-coast driven）の地域交易圏が形成されていたと考えられる。

図1 インド洋交易圏, 1840年

(10万ポンド)



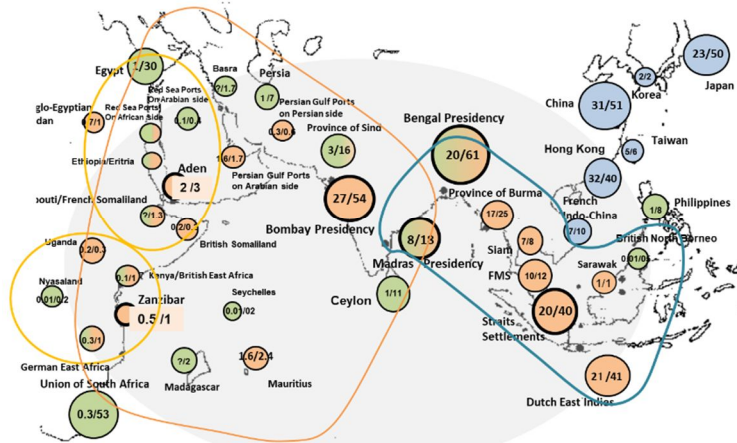
注: 緑は遠隔地貿易主導の、オレンジは地域交易が半分かそれ以上の、混色は比率が不明か、統計に現れないローカルな交易も大きかったことが分かっている港・地域。太い○をつけたものは、地域ハブ機能を果たしていたもの。

交易圏の発展の背景には、イギリスなどの領域支配化、東インド会社の独占が崩れて自由貿易化した遠隔地貿易のインパクトなどがあつた。しかし、この時期の4つのハブは近隣の港との交易も活発で、「遠隔地貿易と沿岸交易をつなぐハブ」の性格を帯びるようになった。内陸部よりも、多少離れた地域との「沿岸型」取引(インド洋諸島との取引も含む)に取引コスト上の利点がある場合もあつた。西インド洋交易圏では、アフリカ東岸から、アラビア半島、紅海、ペルシヤ湾の港を経て、インド亜大陸西岸にいたる、広い地域にネットワークが存在した。インド西岸ではボンベイが中心ハブとなり、シンド、マドラス、ベンガルともつながっていた。他方、ベンガル湾、東南アジアでは、すでに河川・道路交易をつうじて地域分業が発展していたベンガル管区や沿岸に多くの港を擁するマドラス管区、そして海上交易のメイン・ハブとして登場した海峡植民地を三つのハブとする、もう一つのより濃密な沿岸交易圏が形成された。

図2に移る。1910年までに、イギリスなどの統計収集能力は大きく改善した。この図の資料の基礎となつた Diplomatic and Consular Reports などが各地で発行され、港の状況やハブ交易(再輸出 re-exports や transit trade)の重要性の理解も浸透した。また、1840年-1910年の間に、スエズ運河が開通し、「蒸気船」化が進んだ。大洋航路に欧米(日)の商船が参入し、沿岸航路にも小さな蒸気船が就航しはじめた。1910年の図では単位を100万ポンドとしたので、主要ハブなどの数値が1840年と同じレベルだと、この70年間に一桁増えたことになる。

図2 インド洋交易圏, 1910年

(100万ポンド)



注: 緑は遠隔地貿易主導の、オレンジは地域交易が半分かそれ以上の、混色は比率が不明か、統計に現れないローカルな交易も大きかったことが分かっている港・地域。太い○をつけたものは、地域ハブ機能を果たしていたもの。水色は東アジアで、地域交易大部分が東アジア域内の交易。

また、1910年までに、地域ハブが起点となつて、新旧の小港が交易圏に参入し、蒸気船航路につながるサブ交易圏が成立した(ザンジバルをハブとした東アフリカ、アデンをハブとしたアラビア半島・北東アフリカ)。ベンガル湾・蘭領東インドでは、ビルマ、シャム、マレー半島、蘭領東インドの地域交易額が上昇し、地域ネットワークがさらに密になった。

(2) ハブ・後背地関係の形成

以上は、海上貿易中心の観察であるが、19世紀後半以降、インド亜大陸で鉄道建設主導(railway driven)の開発が進み、ボンベイやカルカッタなどで海上交易と陸上交易のネットワ

ークが合体して、インド洋交易圏は巨大な陸域を巻き込む地域経済圏に成長した。鉄道、道路、河川交易は、それまで沿岸部や都市の近郊に限られていた後背地を一挙に内陸部に拡大し、多様な地理的環境的特徴を持つ地域が穀類、綿花、遠隔地貿易向けの第一次産品などをハブに供給するようになった。いわゆる「大港市集中型」のこうした近代インフラの形成によって、伝統的な生産地帯が衰退した一方で、ハブ・後背地関係 (hub-hinterland relationship) の急速な成長が地域経済の発展を主導するようになった。また、インドよりやや遅れて、東南アジアの半島部、東アフリカなどでも、沿岸部の港市ハブから後背地に延びる鉄道が建設され、海域・沿岸主導の地域経済圏が形成された。

ボンベイ、カルカッタ、マドラスは、いずれも鉄道交易の拡大により、遠隔地貿易と地域交易を、海と陸を多角的につなぐハブとして成長した。ボンベイでは沿岸交易によって運ばれる棉花だけでなく内陸部から鉄道で運ばれた棉花や穀物がボンベイ市場に集められ、一部は欧米や日本に輸出され、一部はボンベイの近代綿業の原料となった。穀物の一部はボンベイで消費され、一部は (西インド洋や国内の) 食糧不足地域に再輸 (移) 出された。カルカッタ、マドラスでも同様のハブ機能が発達した。鉄道ブロック (州や大都市) の間の穀物輸送統計を沿岸交易、外国貿易と突き合わせてみると、ベンガル、ビルマ、マドラスからの米の移動、パンジャブ、連合州、中央インドからの小麦の移動、パンジャブ、ベンガル、連合州、中央インド、マドラスからの豆類の移動が三大ハブを介して複雑に交錯していたことがわかる。州間移動と輸出のほとんどは三大港市を經由し、インド洋交易圏を律していた。

これに対し、海峡植民地は、沿岸交易ハブ機能を追求した。鉄道によってマラヤの後背地とだけつながるのではなく、ベンガル湾に面する多くの国や蘭領東インドの港との米交易などのハブ (中継地) となり、域内の国際分業体制を構築したのである。例えば、沿岸ハブは地域の穀物需給の調整弁となった。海峡植民地の存在が、ラングーンやバンコックの米のベンガル湾域内消費を促し、同時にビルマやシャムの鉄道輸送とも呼応して、地域交易圏の拡大に貢献した。さらに、インド洋では、セイロン、モーリシャス、ビルマ、マラヤなどへのインド人移民がプランテーションや商業的農業を支えていた。送り出し先 (マドラスなど) では、移民の稼得を投資して農業生産力の向上をめざしたり、所得の上昇が再生産を容易にしたりすることによって、人口扶養力が上昇した。こうして、プランテーションなどの新規開拓地域と人口密度の高い農業社会との分業による発展が成立した。

(3) ハブ・後背地・環境的辺境

インド洋交易圏の発展を支えたシステムは、比較的小さな領土を持つ国民国家からなる (例えば西ヨーロッパの) 自由貿易体制とは根本的に異なるものである。それは、列強が強制した自由貿易と政治的軍事的な体制のなかで、主としてアジアの商人や金融業者が作り出した地域経済システムであった。そこでは植民地ハブに権力、富、情報が集中するとともに、遠隔地貿易と地域交易が融合して相互補完関係が形成された。大港市ハブは、例えばボンベイでは工業化を生み出す培養基ともなった。他方、後背地の開発はしばしばハブの視点から遂行され、生態系の破壊や土地の劣化を招いた。

さらに、インド洋交易圏の周辺に位置する多くの地域は、ハブ・後背地関係の展開から取り残されるか、みずから後背地になることを拒否して、環境的辺境 (environmental periphery) となった。例えば、アデンは、沿岸ハブとして北西アフリカ、アラビア半島の沿岸部に位置する港とのローカルな交易をインドやヨーロッパとの交易に結びつけたが、この地域では、鉄道建設や内陸部の開発は停滞した。政治的軍事的な要素とともに、分断的な在来商業網や乾燥地域の環境的障壁も大きかったと考えられる。とはいえ、辺境地域がすべて放置されたわけではない。ハブ・後背地関係を補完する役割が必要なら、森林伐採や労働移動が起こった (奴隷貿易は 19 世紀後半まで続いた)。外からの自然の改変は環境劣化にも結び付いた。にもかかわらず、環境的辺境においても、インド洋交易圏と緩やかな関連を維持しつつ、地域社会の文化や生存基盤が確保され、再生産に成功してきた地域は少なくない。乾燥・半乾燥地帯、山間部、海域を問わず、そうした辺境の多様な存在もまた、インド洋交易圏を特徴づけるものである。

インド洋交易圏の成長は、領域支配を超える広大な地域の序列化によって植民地期の経済発展経路を規定した。そこで刻印された自由貿易の構造は、第二次大戦後の政治的経済的独立の過程でしばしば否定的に捉えられた。しかし、「インド太平洋構想」に表現される現代の動きは、インド洋交易圏のより長期的な歴史的評価の必要性を示唆しているように思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 鈴木英明	4. 巻 40
2. 論文標題 20世紀前半ペルシア湾における『アフリカ人』とは誰か： 奴隷解放調書に見られる奇妙な隔たりを手掛かりに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 上智アジア学	6. 最初と最後の頁 49-69
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 巻 -
2. 論文標題 The Suppression of the Transoceanic Slave Trade	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Oxford Research Encyclopedia of African History	6. 最初と最後の頁 1-56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1093/acrefore/9780190277734.013.938	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 David Guerrero, Hidekazu Itoh, Kenmei Tsubota	4. 巻 45
2. 論文標題 Freight Rates Up and Down the Urban Hierarchy	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Research in Transportation Business & Management	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.rtbm.2021.100775	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Atsushi Kobayashi	4. 巻 37
2. 論文標題 Market Integration via Entrepot: Southeast Asia's Rice Trade, 1828-1870	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Economic History of Developing Regions	6. 最初と最後の頁 201-226
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/20780389.2022.2058926	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Atsushi Kobayashi	4. 巻 82
2. 論文標題 Asia's Silver Absorption through the Triangular Settlement System, 1846-1870	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Journal of Economic History	6. 最初と最後の頁 442-479
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/S0022050722000092	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉原薫	4. 巻 -
2. 論文標題 「ヨーロッパの奇跡」再考 大分岐論争とその後 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『経済セミナーe-book 経済史研究の新潮流』(Kindle版)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木英明	4. 巻 63
2. 論文標題 付度する帝国 20世紀前半のペルシア湾地域におけるイギリス非公式帝国と奴隷解放証明書の交付	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 オリエント	6. 最初と最後の頁 111-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木英明	4. 巻 特別号
2. 論文標題 「リヴィングストンの最後のアフリカ探検にみえる第1期ナーシク・ボーイズの渡海経験：1866年から1873年まで」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 なしまあ	6. 最初と最後の頁 42-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 巻 73
2. 論文標題 Between Ushenzi/Ujinga and Ungwana: Slavery in Transitioning East African Coastal Urban Society in the 19th Century	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko	6. 最初と最後の頁 43-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoru Kumagai, Toshitaka Gokan, Kenmei Tsubota, Ikumo Isono, Kazunobu Hayakawa	4. 巻 3
2. 論文標題 Economic Impacts of the US-China Trade War on the Asian Economy: An Applied Analysis of IDE-GSM	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Asian Economic Integration	6. 最初と最後の頁 127 ~ 143
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/26316846211032296	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoru Kumagai, Kenmei Tsubota, Toshitaka Gokan	4. 巻 1270
2. 論文標題 Corridor Developments for Transforming Central Asia: A Spatial Computable General Equilibrium Model	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Development Bank Institute Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Kobayashi	4. 巻 63
2. 論文標題 Tecendo redes imperiais: uma dimensao asiatica do comercio britanico de escravos no Atlantico no seculo XVIII	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Afro-Asia	6. 最初と最後の頁 11-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.9771/aa.v0i63.38307	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 巻 77
2. 論文標題 The Birth of a Node: Nosy Be as a French Protectorate and Trade Networks	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko	6. 最初と最後の頁 87-106
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木 英明	4. 巻 44(4)
2. 論文標題 海域世界の鼓動に耳を澄ます : 19 世紀インド洋西海域世界の季節性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立民族学博物館研究報告 = Bulletin of the National Museum of Ethnology	6. 最初と最後の頁 591-623
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yujiro Kawasaki, Kenmei Tsubota	4. 巻 12(3)
2. 論文標題 Myopic or farsighted: bilateral trade agreements among three symmetric countries	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Letters in Spatial and Resource Sciences	6. 最初と最後の頁 233-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Kobayashi	4. 巻 30(4)
2. 論文標題 [Book Review] The English East India Company's Silk Enterprise in Bengal, 1750-1850: Economy, Empire and Business. By Karolina Hutkova. pp. 275. Woodbridge, Boydell Press, 2019	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the Royal Asiatic Society	6. 最初と最後の頁 774-776
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林和夫	4. 巻 85(4)
2. 論文標題 19世紀の西アフリカにおけるパームオイル生産と輸出 W.A. ルイスの「熱帯の発展」論・再考	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会経済史学	6. 最初と最後の頁 7-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計67件 (うち招待講演 18件 / うち国際学会 26件)

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 “Aden, Arabian Sea and Western Indian Ocean Trade, c.1880-1938” and “Bay of Bengal and Southeast Asia in Straits Settlements Trade, 1890-1938”
3. 学会等名 International Workshop on the Environmental and Historical Foundations of Indian Ocean Trade (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara and Hideaki Suzuki
2. 発表標題 “Indian Ocean Trade, 1800-1950: Hubs, Hinterlands and Environmental Periphery”
3. 学会等名 International Workshop on the Environmental and Historical Foundations of Indian Ocean Trade (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 “Foreign Trade and Internal Trade in British India, 1834-1938”
3. 学会等名 International Workshop on the Environmental and Historical Foundations of Indian Ocean (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Takeshi Nishimura
2. 発表標題 “ The Development of the Currency System of British Colonies in Indian Ocean and the Role of British India ”
3. 学会等名 International Workshop on the Environmental and Historical Foundations of Indian Ocean Trade (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 “ Statistical Analysis on Malagasy Overseas Trade under French Rule ”
3. 学会等名 International Workshop on the Environmental and Historical Foundations of Indian Ocean Trade (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kenmei Tsubota
2. 発表標題 “ Shipping Networks of British India, 1841-1919 ”
3. 学会等名 International Workshop on the Environmental and Historical Foundations of Indian Ocean Trade (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Atsushi Kobayashi
2. 発表標題 “ Development of Presidency Trade in India: Bengal, Bombay and Madras, 1800-1874 ”
3. 学会等名 International Workshop on the Environmental and Historical Foundations of Indian Ocean Trade (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 "British and Indian Cotton Textiles: Continuity and Change in West African Trade during the 19th Century"
3. 学会等名 International Workshop on the Environmental and Historical Foundations of Indian Ocean Trade (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 " Environmental Foundations of the Asian Path of Economic Development "
3. 学会等名 Economic History Workshop, The Research Institute for Development, Growth and Economics (RIDGE), Bogota, Colombia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「環インド洋における地域発展経路の構造 - 20世紀初頭から見た一考察 - 」
3. 学会等名 科学研究補助金・基盤研究(A)「近現代における環インド洋熱帯地域の複数発展経路 - 発展と低開発の複眼的視野の中で - 」研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 " Monetary Foundations of Indian Ocean Trade: Perspectives from Singapore, Aden and Bombay in the Early 20th Century "
3. 学会等名 ' PA.081 Multiplex Payments System and Central Banking', the 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 “ India, Indian Ocean Trade and the Regional Development Path, c.1890-1950 ”
3. 学会等名 ‘ PA.061 From Great Divergence to (Partial) Convergence: Tracing Industrial Transformations in the Global South and North, 1800-2000’, the 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 “ The Nature-intervening Path of Economic Development in Asia, c.1950-2020 ”
3. 学会等名 ‘ PA.156 Environment-economy Interactions in Global Economic History ’, the 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 “ Indian Ocean Trade, c.1890-1950 : A Tentative Census ”
3. 学会等名 科学研究補助金・基盤研究(B)「インド洋交易圏の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築 - 」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Takeshi Nishimura
2. 発表標題 "The organisation of local finance and its relationship with the international banking industry in India during the interwar period: the case of the raw cotton trade between India and Japan"
3. 学会等名 ‘ PA.081 Multiplex Payments System and Central Banking ’, the 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 “ Emergence of British Lake as Consequence of Anti-Slave Trade Patrol in the 19th Century Western Indian Ocean ”
3. 学会等名 特別研究「グローバル地域研究と地球社会の認知地図 わたしたちはいかに世界を共創するのか？」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 「インド洋海域世界を捉え直す ネットワーク論再考」
3. 学会等名 第91回社会経済史学会全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 「ザンジバルのもう一つのコスモポリタン 奴隷交易とシャンバ」
3. 学会等名 日本アフリカ学会第59回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 “ Modernity in Maritime Territoriality: Introduction, 8th IMHA International Congress of Maritime History ”
3. 学会等名 8th IMHA International Congress of Maritime History, FLUP-PORTO (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 “ Setting the Western Indian Ocean World: Seasonality Perspective ”
3. 学会等名 8th IMHA International Congress of Maritime History, FLUP-PORTO (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 “ Mocha Coffee in Three Ways: Plant, Brand and Blend ”
3. 学会等名 Discovering the Indian Ocean World: “ Gyres ”, Indian Ocean and beyond (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 「インド洋西海域における奴隷交易廃絶活動と海の縄張り化」
3. 学会等名 人類史における移動概念の再構築 「自由」と「不自由」の相克に注目して
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Atsushi Kobayashi
2. 発表標題 Divisions and Connections between Hydrosphere: Modern Singapore's rice trade
3. 学会等名 PA.173 Realms of Water: Environmental Socioeconomics of the Hydrosphere of Modern Asia, the 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 The world of weavers in The Gambia in the 1970s
3. 学会等名 'PA.061 From Great Divergence to (Partial) Convergence: Tracing Industrial Transformations in the Global South and North, 1800-2000', the 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 The British Atlantic Slave Trade and Indian Cotton Textiles: An Umbrella Model
3. 学会等名 PA.105 Connecting resources: commodities and trade goods in the shaping of early modern Atlantic economy, the 19th World Economic History Congress (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「資源制約から地球環境問題へ - アジア型発展径路の歴史的再構成 - 」
3. 学会等名 実践プログラム1研究会：成果統合セッション(4) アジアの発展径路と環境・資源・生存、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「世界史のなかの東アジアの奇跡 - 発展径路論と21世紀の課題 - 」
3. 学会等名 科学研究補助金・基盤研究(A)「近現代における環インド洋熱帯地域の複数発展径路 - 発展と低開発の複眼的視野の中で - 」研究会「杉原薫『世界史のなかの東アジアの奇跡』書評会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「公害問題から地球環境問題へ - SDGsと日本・アジア - 」
3. 学会等名 関西大学経済学部講演（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 “ The Great Acceleration in Asia and its Impact on the Anthropocene ”
3. 学会等名 Sustainability Research and Innovation Congress 2021, Brisbane, Australia (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「環インド洋熱帯地域の人口扶養力と貿易 - 1800-1950年 - 」
3. 学会等名 科学研究補助金・基盤研究（A）「近現代における環インド洋熱帯地域の複数発展経路 - 発展と低開発の複眼的視野の中で - 」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「文理融合と社会科学の役割 - 環境経済史研究からの観察 - 」
3. 学会等名 一橋大学「社会科学の発展を考える円卓会議」第2期第5回会議「文理共創を考える」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「世界史のなかの東アジアの奇跡 - 経済史・環境史から「歴史総合」を考える - 」
3. 学会等名 第71回愛知県世界史教育研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西村雄志
2. 発表標題 「19世紀末から20世紀初頭における英領インドの銀貨輸出が果たした役割」
3. 学会等名 科学研究補助金・基盤研究（B）「インド洋交易圏の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築 - 」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 "Who were 'Northern Arabs'? : Appearance in various encounters in the 19th Century Western Indian Ocean "
3. 学会等名 Source Discussion: Terms in Circulation and Categories at Work, 1600-1930（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 植民地期マダガスカルに関する統計的研究 予備的報告
3. 学会等名 科学研究補助金・基盤研究（B）「インド洋交易圏の統計的研究 近代世界における地域交易像の再構築 」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 「20世紀前半ペルシア湾の真珠採取業と二重の拘束 奴隷制と負債」
3. 学会等名 2021年度 東洋史研究会大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林篤史
2. 発表標題 "Breakdown of British India's Trade into Presidencies' Trade, 1800-1874 "
3. 学会等名 科学研究補助金・基盤研究（B）「インド洋交易圏の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築 - 」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小林 和夫
2. 発表標題 「西アフリカ経済の発展径路にかんする試論 19世紀のパームオイル輸出生産を事例として」
3. 学会等名 経済史研究会、東京大学大学院経済学研究科（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 "Another Asian Drama: Growth, Resource Use and the Responsibility for Global Sustainability"
3. 学会等名 Research Institute for Humanity and Nature Special Seminar（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「両大戦間期のアジア間貿易と東南アジア - 域内交易の推計をめぐる - 」
3. 学会等名 京都大学東南アジア地域研究研究所共同利用・共同研究拠点「近代東南アジアの社会経済的変容とコミュニケーション技術の発展」2020年度第1回研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「資源環境史の二類型」
3. 学会等名 実践プログラム1：「環境変動に柔軟対処しうる社会への転換」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 "East Asia in Indian Ocean Trade"
3. 学会等名 Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Workshop on A Statistical Study of Indian Ocean Trade: Towards a Reappraisal of Regional Trade in Modern World History (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「アデンから見た遠隔地貿易、インド洋交易、北東アフリカ・アラビア半島交易」
3. 学会等名 科学研究補助金 基盤研究（B）代表：杉原「インド洋交易史の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「戦後日本の臨海工業地帯における土地と水の確保について」
3. 学会等名 実践プログラム1研究会「戦後日本の工業立地における工業用水の役割」をテーマとして、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「流通ネクサスとしての中継港と連関効果論」
3. 学会等名 科学研究補助金 基盤研究(B)代表: 杉原「インド洋交易史の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「ネクサス論と東アジアの経済発展」
3. 学会等名 ワークショップ「資源ネクサス・生態系サービスの観点から見たSDGs」、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「インド洋交易圏の再編 1900-1950年」
3. 学会等名 龍谷大学南アジア研究センター経済班研究会(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「周牧之氏の中國經濟論と戦後アジアの環境經濟史について」
3. 学会等名 実践プログラム1 研究会「アジアの多様性に対応した開発の諸相」をテーマとして、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hideaki Suzuki
2. 発表標題 "Nosy Be became a French Protectorate: Collapse or Continue of the Western Indian Ocean World in the 19th Century?"
3. 学会等名 Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Workshop on A Statistical Study of Indian Ocean Trade: Towards a Reappraisal of Regional Trade in Modern World History (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坪田健明
2. 発表標題 「アフリカの非主要交易ネットワークの分析：19世紀から20世紀にかけて」
3. 学会等名 科学研究補助金 基盤研究（B）代表：杉原「インド洋交易史の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林篤史
2. 発表標題 「インド洋・南シナ海交易圏の穀物貿易：1800-70年の統計的研究」
3. 学会等名 科学研究補助金 基盤研究（B）代表：杉原「インド洋交易史の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林篤史
2. 発表標題 「英領ベンガル管区の国際貿易の発展、1800-74年：貿易物価指数による分析」
3. 学会等名 科学研究補助金 基盤研究（B）代表：杉原「インド洋交易史の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林 和夫
2. 発表標題 「大西洋奴隷貿易とその後－西アフリカ、インド綿布、世界経済」
3. 学会等名 「「奴隷」と隷属の世界史 - 地中海型奴隷制度論を中心として - 」研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林和夫
2. 発表標題 「近代世界経済の興隆と西アフリカ、1700-1850年」
3. 学会等名 科学研究補助金 基盤研究（B）代表：杉原「インド洋交易史の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「インド洋交易圏と東南アジア 1900-1950年 」
3. 学会等名 京都大学東南アジア地域研究研究所 共同利用・共同研究拠点「近代東南アジアの社会経済的変容とコミュニケーション技術の発展」第1回研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「アジア・アフリカの人口扶養力とインド洋交易圏、1800 - 1950年」
3. 学会等名 科学研究補助金・基盤研究(A)「近現代における環インド洋熱帯地域の複数発展経路 発展と低開発の複眼的視野の中で」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「戦後日本の経済発展と資源節約型径路の発見」
3. 学会等名 関西大学経済学部講演会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 “Past and Present of the Seafront Industrial Complex: A Comparative Perspective”
3. 学会等名 Program 1 Workshop on Patterns of Development Seen in the Context of Asia's Diversity, Research Institute for Humanity and Nature
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 “The Great Acceleration in Asia: Beyond ‘Coal and North America’”
3. 学会等名 Convergence/Divergence: New Approaches to the Global History of Capitalism Conference, University of Oxford(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kaoru Sugihara
2. 発表標題 “ Indian Ocean Trade, 1910-1950 ”
3. 学会等名 International Economic History Seminar, National Graduate Institute for Policy Studies (GRIPS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「グローバル・ヒストリーと資源節約型発展径路」
3. 学会等名 関西大学経済学部講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「アジアの経済発展径路と環境国家」
3. 学会等名 実践プログラム1 2019年度第1回研究会「アジアの多様性に対応した開発の諸相をテーマとして」、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 杉原薫
2. 発表標題 「19世紀 20世紀前半のインド洋交易圏」
3. 学会等名 科学研究補助金 基盤研究（B）代表：杉原「インド洋交易史の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木英明
2. 発表標題 「19世紀インド洋西海域における奴隷交易とその廃絶活動」
3. 学会等名 科学研究補助金 基盤研究 (B) 代表 : 杉原「インド洋交易史の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坪田健明
2. 発表標題 "Regional disintegration in South Asia: evidence from the end of the British Empire on maritime networks"
3. 学会等名 科学研究補助金 基盤研究 (B) 代表 : 杉原「インド洋交易史の統計的研究 - 近代世界における地域交易像の再構築」研究会、総合地球環境学研究所
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 "The Core-Periphery Model Reconsidered"
3. 学会等名 Categories at Work in Global History (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kobayashi
2. 発表標題 "New Book Talk, 'Indian Cotton Textiles in West Africa: African Agency, Consumer Demand and the Making of the Global Economy, 1750-1850'"
3. 学会等名 史的分析セミナー (招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計21件

1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 128
3. 書名 "Circulation of the Kachchhi Bhatiya in the 19th Century: Towards the Indian Ocean World History", in Radhika Seshan and Ryuto Shimada eds., Connecting the Indian Ocean World: Across Sea and Land	

1. 著者名 北川 勝彦、北原 聡、西村 雄志、熊谷 幸久、柏原 宏紀 共編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 295
3. 書名 『概説世界経済史 改訂版』	

1. 著者名 鈴木英明	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 316
3. 書名 「沿岸部スワヒリ世界の形成と展開」永原陽子編 『アフリカ諸地域 ~20世紀』	

1. 著者名 Giorgio Riello, Kazuo Kobayashi	4. 発行年 2022年
2. 出版社 UNESCO and China National Silk Museum	5. 総ページ数 401
3. 書名 "The Global Success of Cotton", in Zhao Feng and Marie-Louise Nosch eds., Textiles and Clothing: Thematic Collection of the Cultural Interactions along the Silk Roads	

1. 著者名 杉原薫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 494
3. 書名 「人新世における複数発展経路 - モンスーン・アジアの資源と生存基盤をめぐって -」、寺田匡宏、Daniel Niles編『人新世を問う - 環境、人文、アジアの視点 - 』	

1. 著者名 岩橋勝、西村雄志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 「歴史における貨幣へのまなざし」岩橋勝編『貨幣の統合と多様性のダイナミズム』	

1. 著者名 西村雄志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 「インド貨幣制度における金貨の役割」岩橋勝編『貨幣の統合と多様性のダイナミズム』	

1. 著者名 Hideaki Suzuki	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 258
3. 書名 "Revisiting Corruption Theory on the Indian Ocean World: A Case Study of Slave Trade in the 19th Century Western Indian Ocean", in Shigeru Akita, Hong Liu and Shiro Momoki eds., Changing Dynamics and Mechanisms of Maritime Asia in Comparative Perspectives	

1. 著者名 Satoru Kumagai, Kenmei Tsubota	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Routledge India	5. 総ページ数 354
3. 書名 "Economic Potentials of Road Infrastructure Developments in and around the North Eastern Region", in Mayumi Murayama, Sanjoy Hazarika and Preeti Gill eds., Northeast India and Japan: Engagement through Connectivity	

1. 著者名 小林和夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 326
3. 書名 『奴隷貿易をこえて』	

1. 著者名 杉原 薫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 776
3. 書名 『世界史のなかの東アジアの奇跡』	

1. 著者名 Atsushi Kobayashi and Kaoru Sugihara	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 684
3. 書名 "Changing Patterns of Sarawak Exports, c.1870 to 2013", in Noboru Ishikawa and Ryoji Soda eds., Anthropogenic Tropical Forests: Human-Nature Interfaces on the Plantation Frontier	

1. 著者名 Takeshi Nishimura and Ayumu Sugawara	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 365
3. 書名 "Introduction", in Takeshi Nishimura and Ayumu Sugawara eds., The Development of International Banking in Asia	

1. 著者名 Takeshi Nishimura	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 365
3. 書名 "The Activities of the Yokohama Specie Bank at Bombay in the second half of the 1930s", in Takeshi Nishimura and Ayumu Sugawara eds., The Development of International Banking in Asia	

1. 著者名 Takeshi Nishimura	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 365
3. 書名 "From Silver to Gold: The Currency Reforms in Asia Before 1914", in Takeshi Nishimura and Ayumu Sugawara eds., The Development of International Banking in Asia	

1. 著者名 Cesar Ducruet, Kenmei Tsubota	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 239
3. 書名 "Maritime Networks of Africa and Asia", in Ayodeji Olukoju and Daniel Castillo Hidalgo eds., African Seaports and Maritime Economics in Historical Perspective	

1. 著者名 小林 和夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 「大西洋奴隷貿易」金澤周作監修、藤井崇、青谷秀紀、古谷大輔、坂本優一郎、小野沢透編著 『論点・西洋史学』	

1. 著者名 鈴木 英明 編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 324
3. 書名 東アジア海域から眺望する世界史：ネットワークと海域	

1. 著者名 Satoru Kumagai, Ikumo Isono, Souknilanh Keola, Kazunobu Hayakawa, Toshitaka Gokan, Kenmei Tsubota	4. 発行年 2019年
2. 出版社 World Scientific	5. 総ページ数 256
3. 書名 "China-Kyrgyzstan Railway Meets", in Linggui Wang, Jianglin Zhao eds., The Belt and Road Initiative in the Global Context, IDE-GSM	

1. 著者名 小林 篤史	4. 発行年 2019年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 456
3. 書名 「シンガポールと東南アジア地域経済－19世紀」古田和子編 『都市から学ぶアジア経済史』	

1. 著者名 Kazuo Kobayashi	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Palgrave Macmillan	5. 総ページ数 278
3. 書名 Indian Cotton Textiles in West Africa: African Agency, Consumer Demand and the Making of the Global Economy, 1750-1850	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小林 和夫 (Kobayashi Kazuo) (00823189)	早稲田大学・政治経済学術院・准教授 (32689)	
研究分担者	西村 雄志 (Nishimura Takeshi) (10412420)	関西大学・経済学部・教授 (34416)	
研究分担者	小林 篤史 (Kobayashi Atsushi) (40750435)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・助教 (14301)	
研究分担者	坪田 建明 (Tsubota Kenmei) (50546728)	東洋大学・国際学部・准教授 (32663)	
研究分担者	鈴木 英明 (Suzuki Hideaki) (80626317)	国立民族学博物館・グローバル現象研究部・准教授 (64401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Workshop on A Statistical Study of Indian Ocean Trade: Towards a Reappraisal of Regional Trade in Modern World History	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Environmental and Historical Foundations of Indian Ocean Trade. 総合地球環境学研究所の実践プログラム1との共催。	開催年 2022年～2022年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------